

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月18日
枚方市立長尾小学校

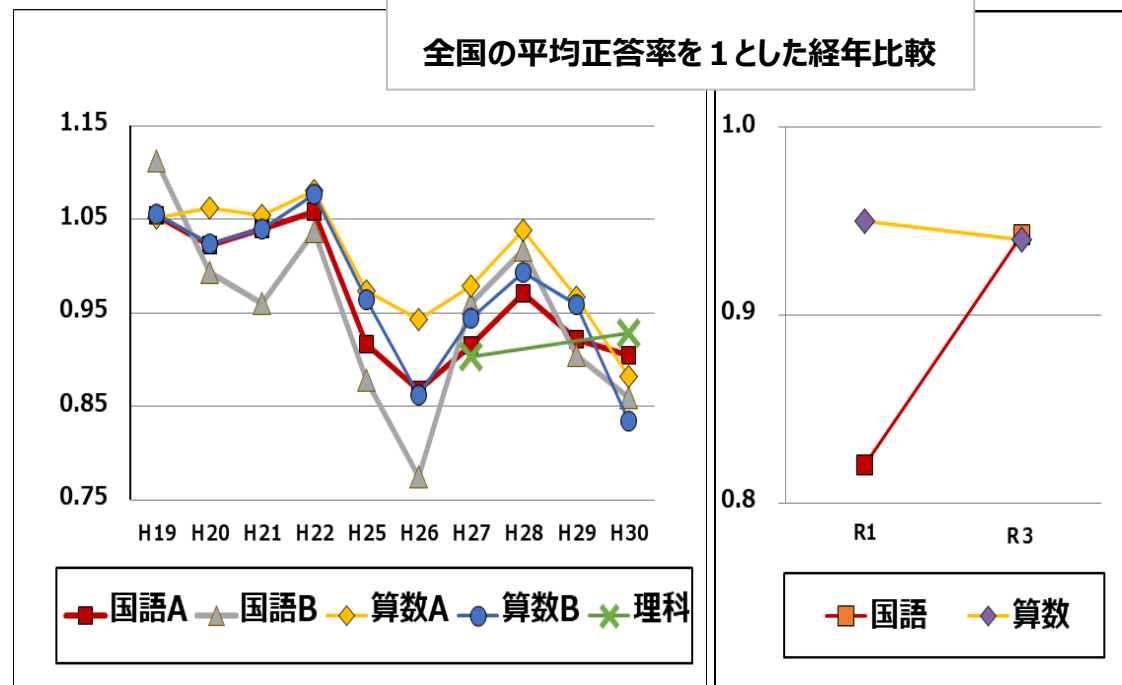
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。
（※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。



<学力調査結果の概要>

○国語について

→全国の平均正答率と比べ、若干低くなっています。内容ごとに見ると、「知識・技能」の「言葉の特徴や使い方」、「思考力・判断力・表現力」の「書くこと」について正答率が低く、「話すこと・聞くこと」について正答率が高く出しています。

○算数について

→全国の平均正答率と比べ、若干低くなっています。内容ごとに見ると、「図形」の分野では正答率が低く、「変化と関係」の分野では正答率が高く出しています。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

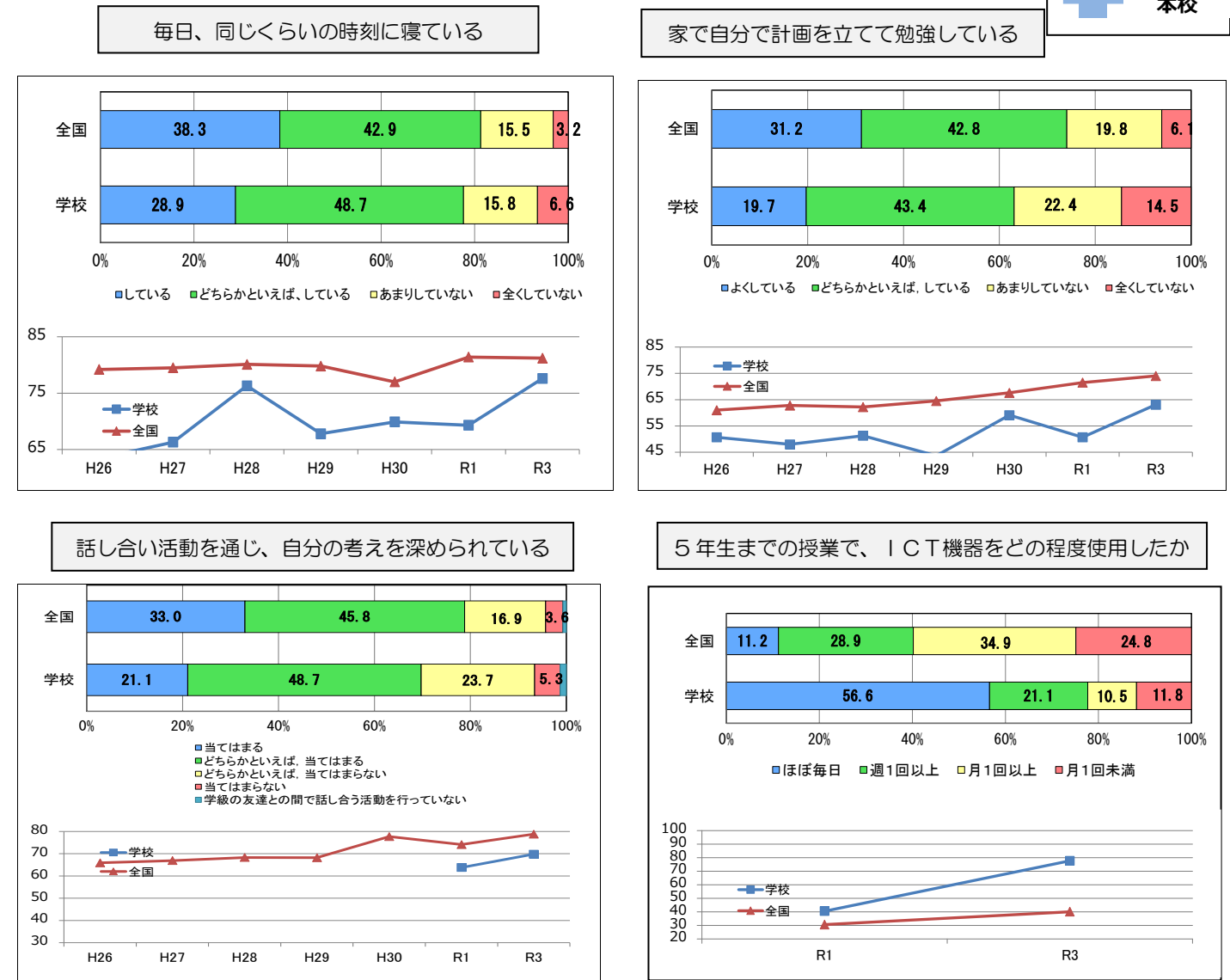
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校



<質問紙調査結果の概要>

- 生活習慣・・・就寝時間については、大きく上昇しました。また、グラフは提示していませんが、朝食を毎日食べる児童の割合も90%を超えています。
- 家庭学習・・・上昇傾向にありますが、全国平均と比べ、低い数値となっています。
- 授業・・・「対話的な深い学び」の割合は、全国平均と比べ低い数値となっていますが、上昇傾向にあります。
- ICT機器の使用・・・全国平均を大きく上回り、高い割合となっています。

★まとめ 教科の学力は、令和元年度と比べ、算数は同程度、国語は大きく上昇しています。学校では、ICT機器を効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」を実践していきます。また、学校での学習の補完として、家庭学習の充実にも努めてまいります。ご協力をお願いいたします。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

目的に応じ、スピーチの構成を考える

一 上野さんは、「スピーチメモ」を作り、「スピーチ」の練習をしています。業績を明確に伝えるために、上野さんはどのような構成で話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 事実と感想とを区別できるように、「中」で業績、「終わり」で自分の感想を話している。

2 感想を印象づけられるように、「はじめ」と「終わり」で自分の感想を話している。

3 二つの事実を区別できるように、「はじめ」で一つの業績、「中」でもう一つの業績を話している。

4 事実と感想とを関連づけられるように、「中」で二つの業績と自分の感想の両方を話している。

	正答率	無解答率
本校	84.0	0.0
全国	77.5	0.3

(考察)

目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかを見る問題です。

具体的には、自分の考えや伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるために、事実と意見、感想を区別し、説明を付け加えるなどの構成の工夫がとらえられているかが分かります。

全国平均を大きく上回りました。


正答 1

【課題】

文章と図表を結び付け、情報を見つける

三 相川さんは、「資料」の部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
- 【資料】の中の文章と  の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。

	正答率	無解答率
本校	26.7	2.7
全国	34.4	4.1

(考察)

目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付けることができるかどうかを見る問題です。文章を読み取ることに加え、示された図表の中から、関連する部分を見付け、文を構成し、必要な事柄を説明しなければなりません。高度な思考を要し、全国的にも正答率は低くなっています。

正答例 メストラルは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)

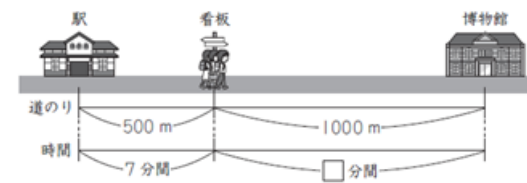
<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる

たけるさんたちは、駅から7分間歩いたところで、「博物館まで1000m」や「駅まで500m」と書いてある看板を見つけました。



500mを7分間で歩く速さで歩き続けると、1000mを歩くに何分間かかりますか。答えを書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	90.7	1.3
全国	86.7	1.7

(考察)

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらを用いることができるかが分かる問題です。速さと時間、道のりの関係を正確にとらえているかが分かります。

計算せずとも、距離が2倍になれば、かかる時間も2倍になることが理解できていれば、難しくない問いと言えます。

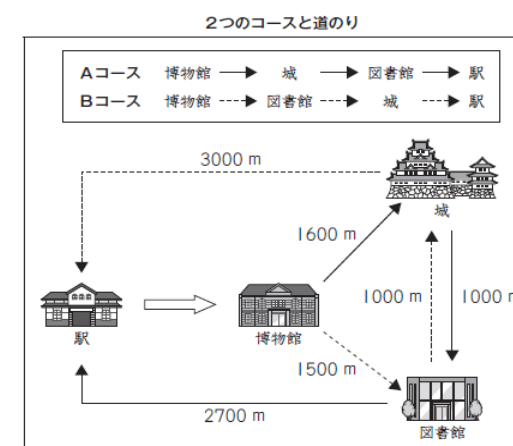
全国平均と比べ、正答率は高く出ています。

正答 14

【課題】

二つの道のりの差をもとめるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる

(1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。



たけるさんたちは、道のりがBコースより短いAコースで行くことにしました。

Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いですか。

求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	50.7	1.3
全国	62.5	1.7

(考察)

単純に一つひとつのコースの距離を問われれば答えられるものも、たくさんの情報が一度に提示され、その中から条件に従って数値を選び計算し、さらにその過程と結果を説明する必要があれば難しい。日常生活の中で遭遇するであろう問いです。全国平均と比べ、正答率が低く出ています。

正答例 Aコースの道のりは、 $1600 + 1000 + 2700 = 5300$ で、5300mです。

Bコースの道のりは、 $1500 + 1000 + 3000 = 5500$ で、5500mです。

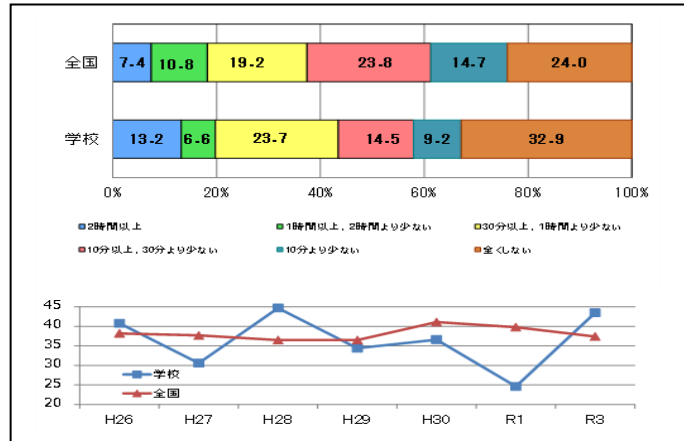
だから、 $5500 - 5300 = 200$ で、200m短いです。

質問紙に関する調査

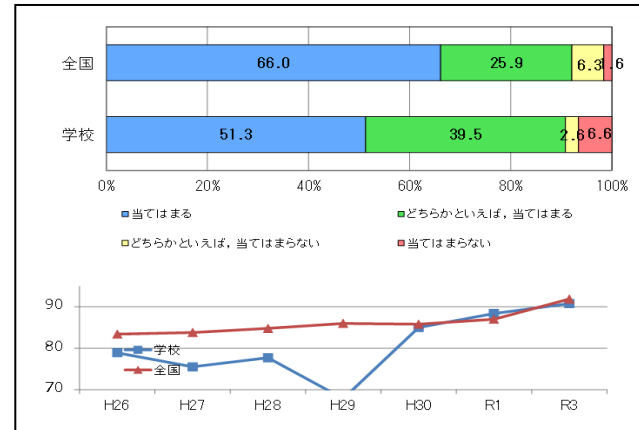
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

学校の授業時間以外に、普段(月曜から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※折れ線グラフは30分以上の割合

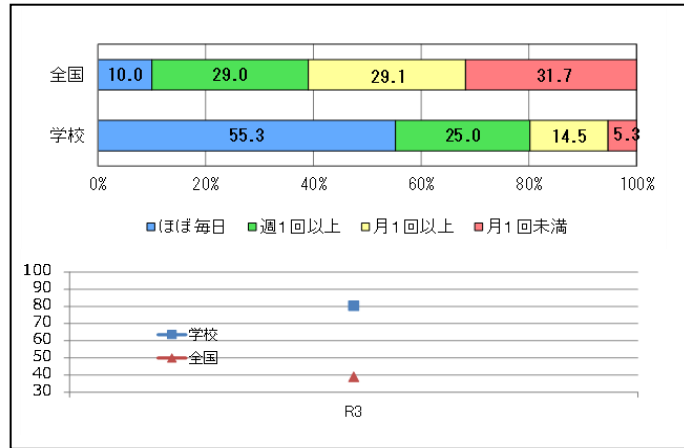


算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



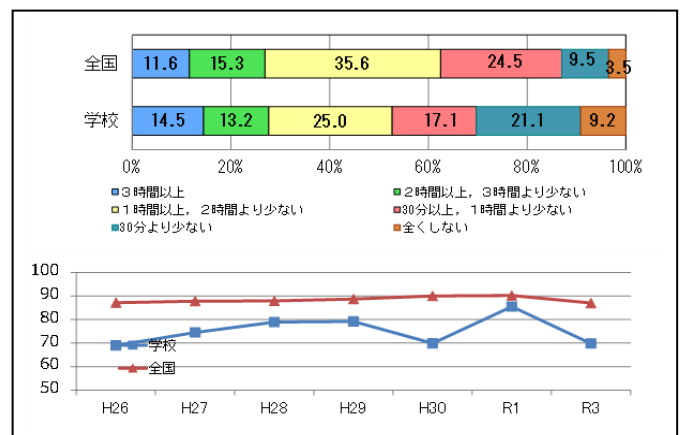
▲ 全国
■ 本校

学校で、ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか ※折れ線グラフは週1回以上の割合



【課題が残った項目】

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※折れ線グラフは30分以上の割合



(考察)

<読書の時間>

平日に30分以上の読書をする児童の数は前回と比べ、大きく増加し、全国平均を上回りました。ただ、割合は半数に届いていません。

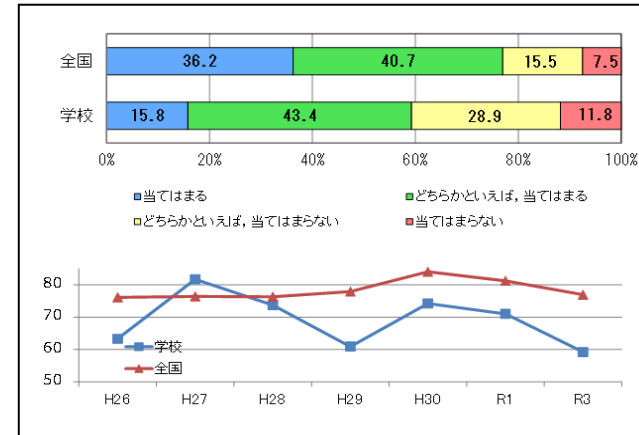
<授業に向かう姿勢>

単に答えを出すのではなく、なぜそうなるのか筋道立てて考え、それを表現するのは、大切なことです。算数の授業で「問題の解き方、考え方」を書いている児童は9割を超えています。

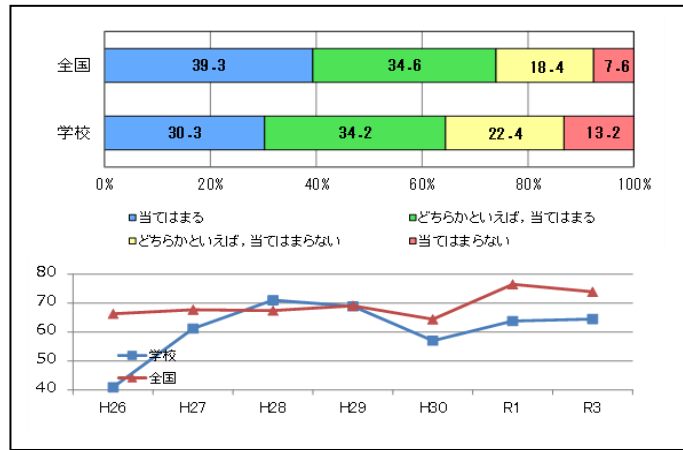
<ICT機器の活用>

タブレットを授業の中で活用する児童の割合は、全国平均を大きく上回っています。

自分には、よいところがあると思う



算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



(考察)

<自学自習>

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、30分以上学習する児童の割合が、全国平均を大きく下回りました。

<自己肯定感>

他者理解の前提である自己肯定感(「自分には、よいところがあると思う」)は、前回調査より下落傾向にあり、全国平均を下回っています。

<学習と生活の結びつき>

「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」は前回とほぼ同じ水準ですが、全国平均を下回っています。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

この度の学力・学習状況調査では、主として以下のような課題が浮かび上がってきました。

国語・・・「漢字の書き取り」「主語と述語、修飾語」「文章と図表を結び付け、情報を見つけ、説明する」

算数・・・「図形の基礎」「たくさんの情報の中から、必要な情報(数値)を選び、その求め方と答えを記述する」

このことから、それぞれの教科で、基礎・基本(漢字や図形の基礎の部分等)をしっかり行うこと、そのうえで「対話的学習」や「その解答に到達する道筋を論理的に説明する」といった学習を展開し、学習の深化を図ります。特に、「文章と図表を結び付け、説明する」「たくさんの情報の中から必要な情報を選ぶ」といった学習は、児童が実生活を行う上で必要不可欠なものです。上述、質問紙調査「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で・・・」では、肯定的評価が60%強であり、児童の授業での学習と実生活が密接に結びついていないといった課題も浮かび上がってきました。児童の実生活の課題と授業内容を結び付け、「学習したことが生活にいきる」そんな意識を児童にもたせる学習を展開していきます。

本校では、本年度の校内研究の主題を「ICTを活用した授業方法の研究～タブレット端末を効果的に活用した授業モデルの構築～」と据え、授業研究に取り組んでおり、昨年度からICT機器の活用に力を入れています。この点では、質問紙調査から、多くの肯定的評価が得られました。引き続き、ICT機器を効果的に活用した学習を展開していきます。

(2) 人権教育について

人権教育の根幹は、「自己理解」そして「他者理解」であると考えます。

質問紙調査「自分には、よいところがある」では、肯定的評価は60%と低く出ています。まずは、学校生活の中で、児童一人ひとりが自分の良さを確認できる機会を増やし、また児童同士がお互いの良さを認め合うといった関係をさらに強く構築していきます。実生活の中で「自己理解」「他者理解」に努め、また、道徳の時間では客観的な視点で「道徳的課題」に向き合う。そのような繰り返しの中で、人権教育の根幹を育て、展開していきます。

(3) 自学自習力について

学校の学習を補完するのは家庭での学習となります。小学生のうちから、自分で計画を立て、宿題以外に復習、自主学習を行うといった習慣をつけることは大切です。家庭での学習計画の立て方、自主学習のやり方等、指導してまいります。